

トスカ

G.プッチーニ

オペラ全3幕 字幕付原語(イタリア語)上演

カヴァラドッシ役 樋口達哉&城宏憲 スペシャル・インタビュー

イタリア仕込みの輝かしい美声とヒロイックな容姿のスター性を持ち、圧倒的人気を誇る樋口達哉。

『イル・トロヴァトーレ』で鮮烈な代役デビューを果たし、オペラ界の新星誕生を印象づけた城宏憲。

日本オペラ界で最も勢いのある2人のテノールに『トスカ』にむけての思いを聞いた。



“今”だから演じられるカヴァラドッシ 樋口達哉

まず『トスカ』という作品、そしてカヴァラドッシへの思いをお聞かせください。

プッチーニは、大好きな作曲家です。イタリア留学から帰ってきて、日本でデビューをした作品も『トスカ』(2003年 新国立劇場)でした。まさにイタリアで学んできた役でデビューできたことは、本当に嬉しかったです。

もちろん主役はトスカなのですが、それと同じくらいカヴァラドッシという役は重要です。強くヒーロー的な表現もあれば、トスカへのいとおしい気持ちの表現もある。単調ではない様々な面を出せる役柄だと思っています。

好きなシーンや見どころ、聴きどころなどを教えていただけますでしょうか？

第3幕にある有名な《星は光りぬ》というアリアの後に、牢獄に捕らわれているカヴァラドッシをトスカが助けに来るシーンがあります。トスカは、カヴァラドッシに「これで助かる」と伝えるのですが、彼はきっとどうあっても自分が死ぬことをわかっていたと思います。そこで、カヴァラドッシは「もう一度、今までのよう(君の)甘い声で話しておくれ」という言葉をトスカにかけるのです。その時、彼がどんな気持ちで歌っていたかと思うと、本当に胸が締めつけられます。第1幕から見どころ満載のオペラですが、このシーンが一番好きですね。

指揮のダニエーレ・ルスティオーニとは、2014年の『蝶々夫人』でも共演していますが？

30代の若い指揮者らしく、“新しいイタリアの風”を吹かせてくれるマエストロです。1950、60年代のいわゆる大マエストロたちの表現も踏襲しながら、そこから新しい表現を生み出していると思います。自分の意見を押し付けてくるのではなく、一緒につくり上げていく楽しさを『蝶々夫人』の時に感じました。彼の躍動感あふれる指揮は、まさにイタリア人らしく、本当に素晴らしい。今回はローマ歌劇場との提携公演ですし、舞台とマエストロの指揮がマッチングしていくのが楽しみです。

それでは、『トスカ』を楽しみにしている皆様へのメッセージをお願いします！

以前は『蝶々夫人』のピンkartonの方が、自分の声にとって、歌いやすい役柄だったかもしれません。今の自分にはカヴァラドッシの方が合っているように思います。若い頃より声への理解や表現も少しずつ深まり、より色気のある表現を追求していく中で、今だからこそ演じられるカヴァラドッシがある。『トスカ』は、これから自分の持ち役として、「カヴァラドッシと言えば樋口達哉。」と言われるようなオペラにしたいです。ぜひ観に来ていただきたい！劇場でお待ちしております！！



樋口達哉(ひぐち たつや) テノール
98年ハンガリー国立劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ役で欧洲デビュー。99年ミラノ・スカラ座『運命の力』(R・ムーティ指揮)に出演。国内では2003年より新国立劇場『トスカ』『蝶々夫人』『ナブッコ』等で大役を演じ、二期会では『ダフネ』『ラ・トラヴィアータ』『蝶々夫人』『ホフマン物語』等でも聴衆を魅了。NHKニューオペラコンサートにも連続出演。
二期会会員



カヴァラドッシは『トスカ』の清涼剤

城 宏憲

今回の『トスカ』で正式な二期会デビューとなります、現在の心境は？

2010年から約2年間、イタリアに留学し、声楽を学びました。『トスカ』は、イタリアを舞台にした、イタリア人作曲家による、イタリア語のオペラです。これほどイタリア尽くしのオペラは他にはなかなかないと思います。この『トスカ』で二期会デビューできることを、イタリアで学んだ一テノールとして、心から嬉しく思っています。

現在、カヴァラドッシを演じるにあたって、自分に求められている“イタリア”というものを、日本人としてどれほど表現していくのかを、自分の中で培ってきた“イタリアらしさ”をもう一度見つめ直しながら、探求しているところです。

2016年2月『イル・トロヴァトーレ』では、急遽の代役でタイトルロールを演じられましたが？

『イル・トロヴァトーレ』での体験は、自分の人生のターニング・ポイントになったと思います。マンリーコという役は、イタリア・オペラの支柱ともいえるヴェルディが生み出した悲劇的な役の中でも、トップクラスといえるほど複雑な役柄です。声はもちろん、様々な表情・演技力も求められます。この難役を演じきれたことは、大きな自信となりました。

本当に鮮烈な代役デビューで、女性のお客様からも「ステキ！」という黄色い声が聞かれました。

いやいや、そんな(笑)。でも、マンリーコというのは、女性が憧れるべきキャラクターだと思います。レオノーラが命を懸けて救おうとすることに、リアリティがなければいけない。実際に、これ以上ないぐらいにヒロイックな見せ場も与えられていますし、そこを外してしまったら、とてもカッコ悪いことになってしまいます。もし、そのように憧れの対象となるマンリーコだと思っていただけたら、とても幸せなことです。

それでは、カヴァラドッシ役への思いや意気込みをお願いします！

主要人物が全員死んでしまう『トスカ』は、どうしても暴力的な印象の残るオペラです。その中で、カヴァラドッシは、ある意味で清涼剤の役割を担っているといえます。“モル(短調)”で激しい曲が多い中、彼の歌には“ドゥア(長調)”が多く、彼の口からはトスカへの慰め、愛が溢れます。そのような役割が担えるのも、彼が弱い者には寄り添える優しさを持ち、権力には立ち向かえる強さを持つ、イタリアの成熟した男性であるからだと思います。3つのアリアはもちろん、作品全体を通して、そんな彼の魅力を表現してきたいですね。

2月15日(水)18:30★ 16日(木)14:00
18日(土)14:00 19日(日)14:00

★プレミエキャンペーン！15日(水)初日公演にご来場のお客様、ペア150組様に、「黄色いバラの花」を1本プレゼントいたします。(※受付先着順) 詳しくはHPをご覧ください。

東京文化会館 大ホール

S15,000円 A13,000円 B10,000円 C8,000円
D 6,000円 僅少 E 2,000円 学生 2,000円

※未就学児童入場不可 ※学生券は、二期会チケットセンター電話のみの取り扱い

〈予約・お問合せ〉

チケットスペース 03-3234-9999

チケットスペースオンライン

検索

二期会チケットセンター 03-3796-1831

二期会チケット

検索

〈プレイガイド〉

●チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード 310-031) <http://pia.jp/>

●ローソンチケット 0570-000-407(オペレーター) / 0570-084-003(Lコード 33189) <http://l-tike.com/>

●イープラス <http://eplus.jp/> ●東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

●東京都交響楽団 03-3822-0727 <http://www.tmsso.or.jp>



城 宏憲 (じょう ひろのり) テノール
文化庁新進芸術家海外研修制度にて渡伊。
2012年サトイ・キネン松本への出演を機に帰国。
二期会には今年2月『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ役の急遽代役でデビュー。

リリコ・スピントの声質を持ち味に、ドラマティックな演技、端正な舞台姿で注目されている。二期会会員

～ STORY ～

1800年6月17日。フランス革命後、不安な政情に揺れるローマが舞台。歌劇場の人気歌手トスカと恋人の画家カヴァラドッシが主人公。カヴァラドッシは、脱獄した共和派の友人アンジェロッティを匿ったために、ローマ市の警視総監スカルピアに捕えられ、処刑される運命となる。スカルピアは、カヴァラドッシの解放と引き換えに、トスカを我が物にしようと迫るが……。

〈妙なる調和〉、〈歌に生き、愛に生き〉、〈星は光りぬ〉など、まばゆい名アリアで紡がれる、美しくも悲しい愛の物語。

◆配役:	15・18	16・19
トスカ	木下美穂子	大村博美
カヴァラドッシ	樋口達哉	城 宏憲
スカルピア	今井俊輔	直野 資
アンジェロッティ	長谷川寛	山口邦明
堂守	米谷毅彦	峰 茂樹
スポレッタ	坂本貴輝	高梨英次郎
シャルローネ	増原英也	高橋祐樹
看守	清水宏樹	大井哲也

指揮: ダニエーレ・ルスティオーニ

演出: アレッサンドロ・タレヴィ

合唱: 二期会合唱団 管弦楽: 東京都交響楽団

※やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。

好評発売中！